

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成28年11月4日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
P T A 会長名	芳賀 早織

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援学校訪問
	実施日時	平成28年9月5日(月)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施目的	幼稚園保護者が特別支援学校を訪問し、交流を深めることにより特別支援学校に対する理解と知識、教養を深め、その後の園児と生徒との交流基盤をつくることを目的とする。
	実施内容	特別支援学校を訪問。生徒の授業風景や「ふようまつり」で販売する製品の製作活動を見学し、まつりの案内PRを在校生より受ける。その後、副校長先生より「インクルーシブな社会の実現に向けて」の講話を聴く。
	実施方法	貸切バスにて特別支援学校到着後、校内で授業を見学し、その後、体育館に移動し講話を受ける。
参加人数	宮城教育大学附属幼稚園保護者52名	

報告事項	内容	<p>平成28年9月5日(月)宮城教育大学附属幼稚園から特別支援学校まで貸切バスにて保護者52名が訪問しました。到着後、体育館で開会式が行われ、生徒会長による「ふようまつり」のPRをしていただきました。</p> <p>その後、保護者が3グループに分かれて高等部の「木工班」「陶芸班」「総合サービス業班」の施設見学を行いました。</p> <p>「木工班」では、生徒さんたちによる1個200円の鍋敷き販売、「陶芸班」では、流し込み手法による陶芸の製作見学、「総合サービス業班」では、大学職員の名刺作成の見学を行いました。</p> <p>授業風景見学後、体育館に戻り、田野崎副校長先生による「インクルーシブな社会の実現に向けて」というテーマの講話を聴講しました。</p> <p>バスにて宮城教育大学附属幼稚園に戻り、保護者アンケートを実施しました。</p>
	結果	<p>生徒さんたちの活動する姿を実際に見学して、学校の環境を知ることができ、良い理解につながったと思います。</p> <p>今回は「木工班」の生徒さんたちの鍋敷を実際に販売している姿を見ることができたことで、より身近に感じ深い交流になったと思います。「陶芸班」による陶器は、10月4日に開催された宮城教育大学附属幼稚園のバザーでも販売させていただき、大変好評でした。</p> <p>また、田野崎副校長先生の「インクルーシブな社会の実現に向けて」の講話を聴講し、障がいのあるものと障がいのないものが共に学ぶことの大切さを知ることが出来ました。</p>
	所感	<p>今後も特別支援学校と連携し、お互いの成長に繋がるような活動内容を考え、多くの人たちに参加して頂ければと思います。</p> <p>特別支援学校のカンガルーシップ助成金事業という良い機会をいただき有意義な交流が出来たことに感謝いたします。</p>

添付書類	実施報告書掲載可
------	----------

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

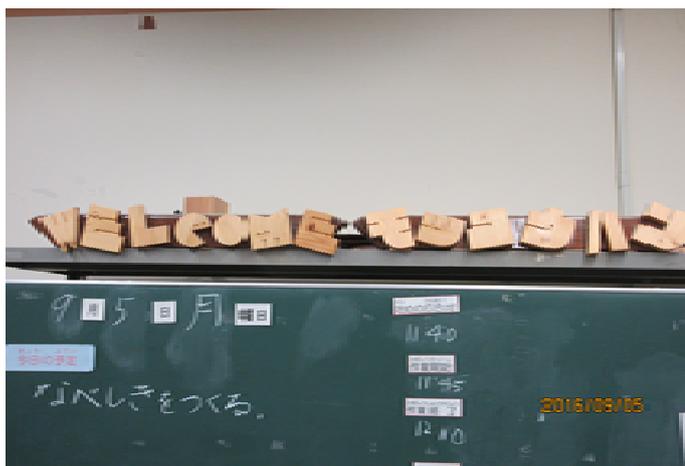
提出日	平成28年11月4日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属幼稚園
学年	



田野崎副校長先生の講話を聴講中



総合サービス業班の名刺作成見学



木工班の黒板



木工班の鍋敷きを購入



陶芸班の作品



幼稚園バザーでの作品販売

活動に参加しての感想

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成28年11月4日
学校名	宮城教育大学附属幼稚園

- ・とても充実した企画で、有意義な時間を過ごすことが出来ました。支援学校をより身近なものに感じ、今後何かお手伝いが出来ればと思いました。
- ・緑豊かで、自然にも恵まれた良い環境にある、青葉山に行く機会がなかなか無いので、貴重な体験でした。どのようなことを学んでいるのかという説明もあり、良かったです。
- ・木工班のクマの鍋敷が可愛かったです。子どもからも「可愛い」と大好評でした。ネコやヒツジ等のバリエーションを増やして頂ければと思います。素敵な品をありがとうございました。
- ・販売品を鍋敷だけでなく、陶芸品等もあると良かったと思います。
- ・見学だけでなく販売もあったので、購入することで生徒さん達と触れ合い、やり取りすることも出来ました。生徒さん達の意欲に繋がっていければ嬉しいです。生徒さんの優しさが伝わる企画でした。
- ・生徒さん同士のコミュニケーションが良く取れていると感じました。挨拶もしっかりして下さって素晴らしいと思いました。
- ・ふようまつりのPRが良かったので、子どもと一緒にふようまつりに行こうと思いました。
- ・教室では、作業の内容等がとても分かりやすく書かれていることに感心しました。子どもに接する時に参考にさせていただきます。
- ・授業見学をさせて頂き、しっかりと先生のお話の通りに、また自主的に行動する姿に感心しました。時間があれば、もっと色々な場所や活動を見たかったです。
- ・生徒さんの頑張りを見ることが出来て良かったです。
- ・子どもの心の成長にとって必要なことであり、これから親として子どもと一緒に考えていけるテーマで、大変勉強になりました。
- ・副校長先生の講話がとても勉強になりました。もっと生徒さんと関わってみたいです。
- ・事前の案内から、なかなか体験できない企画内容だと思い参加させて頂きました。予想以上に自分にとって意味のあるとても良い内容でした。
- ・自分の視野を広げることが出来たので、参加して良かったです。
- ・一緒に空間にいるだけで、障がいのある方への理解が深まると思います。これは障がい児に限定された事ではないように見え、困っている人に手を貸せる人になるきっかけになると思います。
- ・「インクルーシブ」という言葉がもっと広まって皆が協力し合え、助け合える社会になっていかなくてはならないと改めて思いました。
- ・子どもと向き合い、相談する場所があり、支援・指導を受けることが出来るようになったと考え、とても有難いことだと思いました。全ての子ども達の個性に寄り添い、共に学ぶことが出来たら本当に素晴らしいと思いました。
- ・特別支援学校の生徒さん達と、附属校園の子ども達が接する機会がもっと増えることを願います。四校園というのが大変意義のある事だと気付きました。
- ・インクルーシブな社会になっていくには、多くの方が支援学校の事を知り、理解する事が大切だと思いました。また、私達の意識を変えることから始めたいと思いました。子どもにも支援学校との交流を通して成長してもらいたいと思います。
- ・これからの時代に即した内容だと思いました。理想で終わらないよう、日々研鑽されている先生方の熱意が伝わり、自分自身の捉え方も変わったような気がしました。
- ・教育者の視点で、障がいのある生徒さんにどのようなアプローチをしなければならないのか、熱意のあるお話の中から伝わりました。様々な職種の方と分担して障がいのある生徒さんに接することが理想だと感じました。先生方の変えがよく分かりました。
- ・一部分なのでしょうが「インクルーシブな社会」の最新情報に、触れることが出来ました。今後、子どもの学びに関して、また私自身、地域との関わりにおいて意識を持っていたいと思います。さらに深く、現場のことを理解したいです。
- ・学校の教育内容への自信と共生社会への希望と熱意が感じられ、子を持つ親として、何か出来ることはやってみようという気持ちになりました。
- ・自分には知識が無いから障がいを持っている方と関わらない、ではなく積極的に知り、関わり、子どもにも伝えなければいけないと感じました。
- ・子どもにとって、生きる力を身に付けるということは、障がいの有無に関わらず、共通して大切だということが分かりました。